



住民不在の十条駅西口再開発・特定整備路線補助73号線

計画取り消し求め住民提訴



再開発ビルの完成イメージ図

西口再開発については、準備組合が地判を、同時に提訴しました。

西口再開発については、準備組合が地の影響も懸念の施設が入り、周辺商店街への影響も懸念

住民不在で進められている十条まちづくりの見直しを求める住民らは1日、十条駅西口再開発と特定整備路線補助73号線の都市計画を不服として、国と東京都に対し訴訟を起しました。

原告団は、十条の地元住民らでつくる「庶民のまち十条を守る会」、「西口再開発を見直す会」、「埼京線とまちづくりを考える会」の有志ら120人で構成。都に対し、西口再開発の認可取り消しを求める裁判と、国に対し補助73号線の認可取り消しを求める裁判を、同時に提訴しました。

原告団は、十条の権者の3分の2の同意を得たとして本組合の設立を申請、今年の5月26日に、都がこれを認可しました。計画の中心となる再開発ビルは、高さ約150㍎、40階建てとなり、下町情緒を残す十条のまちのイメージを一変させることになりま

訴えています。

「73号線が建設されれば予定地の住宅約300棟が立ち退かされ、街は分断…、十条駅前の商店街も衰退してしまう」と訴えています。

住民らは訴状で「73号線が建設されれば法的瑕疵の疑いが指摘されています。年前の都市計画決定は法的瑕疵の疑いをつくる計画で、20〜30㍎の巨大道路をつくる計画で、71年前の都市計画決定は法的瑕疵の疑いが指摘されています。住民らは訴状で「73号線が建設されれば予定地の住宅約300棟が立ち退かされ、街は分断…、十条駅前の商店街も衰退してしまう」と訴えています。



十条駅周辺の再開発・道路建設計画



あいさつする、そねはじめ都議



記念講演をおこなう池内さおり衆院議員

北区革新懇が

納涼の夕べ

4日、北とびあで開かれた北区革新懇・納涼の夕べには100人を超える参加者。池内さおり衆院議員が記念講演、日本共産党の、そねはじめ都議、新社会党の福田実元区議らがあいさつしました。(のの山けん)



原水爆禁止世界大会・長崎開会総会 =7日

核兵器に依存する政策の見直しを

核兵器禁止条約批准は被爆者、国民の願い

体との懇談では、歴史的な条約にサインするよう求めた被爆者に対し、「核兵器保有国と非保有国の立場のへだ

72年目のヒロシマ・ナガサキの日を迎えました。去る7月7日、国連会議で人類初となる核兵器禁止条約が、国連加盟国の約3分の2、122カ国の賛成で採択されて最初の原爆の日となります。ところが安倍晋三首相は、広島での平和祈念式典でも、長崎の式典でも、政府を代表しておこなったあいさつの中で、核兵器禁止条約については一言も言及しませんでした。それどころか、被爆者団体との懇談では、歴史的な条約にサインするよう求めた被爆者に対し、「核兵器保有国と非保有国の立場のへだ

八雲神社で盆踊り

5日、八雲神社で第5回岩淵町盆踊りが開かれました。今年も2時間踊りっぱなし！（のの山けん）

たりを深め、核兵器のない世界の実現をかえって遠ざける」などと、条約を否定する発言をおこないました。世界の国々が議論を積み重ね、長年にわたる努力の末に採択にこぎつけた核兵器禁止条約は、日本の国民や被爆者の願いに真正面からこたえるものです。にもかかわらず、核保有国とともに国連会議をボイコットしたばかりか、採択された条約に背を向ける態度は、唯一の被爆国の政府として、異常の極みです。長崎の平和祈念式典で田上富久市長は、「条約への一日も早い参加を目指し、核の傘に依存する政策の見直しを」と求めました。日本政府はこの声に真摯に向き合うべきです。（のの山けん）

平和を願ってトーク&ライブ

赤羽駅西口 NO WAR KITAKU ACTION

6日、赤羽駅西口でNO WAR KITAKU ACTIONを開催。沖縄の基地問題や原発、共謀罪をテーマに、講演とミニライブが繰り広げられました。日本共産党の山添拓参院議員もマイクを握り、熱く平和を訴えました。（のの山けん）

